

～「感染しやすい」デルタ株への対応～

現在、道内においては、検査数の85%以上が感染しやすいデルタ株に置き換わり、感染の拡大が進んでいます（8月13日現在）。夏休み中の学校関係者の感染者数も、これまでの夏休みや冬休みと比べると多い状況です。

夏休みが明け、学校の教育活動が再開されますが、学校での感染拡大の防止等に向け、保護者の皆さまにも次の点について改めてご協力いただきますようお願いします。



お子様・ご家族に「症状がある」場合は、「自宅で休養」してください

【これまでの校内感染事例にみられた特徴(例)】

微熱があったが、薬を飲んで登校し続け、後に感染が判明し、校内で感染が拡大

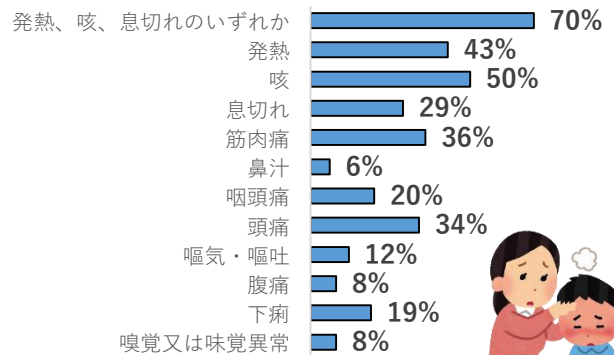


同居する家族にのどの痛みがあったが、症状が軽かったため、本人は登校し、後日家族全員の感染が判明し、校内で感染が拡大



発熱の有無に関わらず、お子様・ご家族に症状がみられる場合は、症状がなくなるまで、自宅で休養していただくようお願いします。

COVID-19の症状の頻度



「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き（第5.2版）」

PCR検査または抗原検査を受けることになったら、学校に連絡してください

学校での感染拡大を防止するためには、感染が判明した後の迅速な対応（臨時休業等）が必要になります。そのため、PCR検査または抗原検査を受けることになった場合、可能な限り速やかに学校に連絡していただくようお願いします。



SNSによる誹謗中傷等がなくなるよう、ご協力をお願いします

新型コロナウイルスの感染者が出た学校や地域では、感染者やその家族への偏見・差別や、SNSによる誹謗中傷等が生じてしまうことがあります。

非難や差別の根っこには、見えない・わからないウイルスへの「不安・恐怖」や「防衛本能」があると言われています。誰でも感染者になる可能性がありますし、誰の中にも不安や防衛本能はあります。

自分たちにできることは何か、ご家庭でもお子様とお話していただきますようお願いします。



「ウイルスが
広まったのは、
あいつのせいだ！」



「ウイルスの次にやってくるもの」（日本赤十字社）